年　組　名前

道新でワークシート

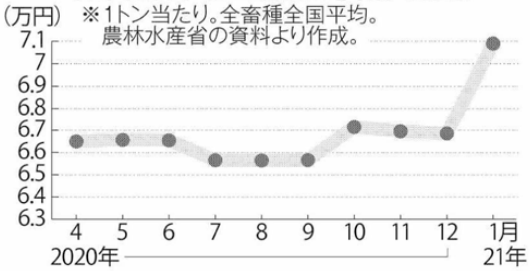
配合飼料値上がり

中国の原料輸入増 背景

家畜のえさになる配合飼料が値上がりしている。中国が原料のトウモロコシを大量に輸入して国際相場が上がったことが影響し、JA全農は4～6月期の供給価格を全畜種平均で1ト当たり5500円引き上げた。上げ幅は14年ぶりの大きさで、1割弱の値上げになるとみられる。高値が続くとの見方があり、道内の畜産への影響が懸念される。

（長谷川裕紀）

配合飼料の工場渡し価格の推移



高値長期化か 農家打撃

配合飼料は牛や豚、鶏に与えられる。原料となるトウモロコシや大豆かすは多くを米国や南米などからの輸入に頼っている。

トウモロコシ価格の国際指標である米国シカゴ相場は、昨年9月まで1ブッシェル（25・4キロ）当たり3ドル台だったのが、今年1月に7年ぶりに5ドルを超え、4月は5ドル台後半で推移している。配合飼料の工場渡し価格は1月に前年同月比6％高の1トン当たり7万902円と、ここ10年で最も高い。飼料各社はJA全農に追随する傾向があり、さらなる値上がりが見込まれる。

高騰の背景にあるのが中国の食料事情だ。国民食である豚肉を巡りここ数年、アフリカ豚熱（ASF）流行の影響で一時落ち込んだ生産を大規模な農場で増やす動きが活発化。中国は飼料を主に自国産でまかなってきたが、それでは足りなくなり、トウモロコシを大量輸入するようになった。天候不順で南米の収穫に遅れが出たことも価格上昇につながった。

飼料費は畜産にかかるコストの4～6割を占め、畜産農家への打撃は大きい。値上がりの一部を補塡（ほてん）する国の制度があるものの、釧路管内鶴居村の酪農家は「新型コロナウイルス流行による消費低迷で乳価は伸びておらず、この高値が続けば手取りが減ってしまう」と心配する。

資源・食糧問題研究所の柴田明夫代表は「中国が飼料の輸入国になり、世界各国による争奪戦が始まっている。今回の値上がりは一時的なものでは済まないだろう」と話している。

２０２１年４月１７日（土）朝刊　全道版　経済　１０P

①中国がトウモロコシを大量に輸入していることで、道内の畜産にどのような影響を与えていますか。記事を読んで考えて書きなさい。

②中国がトウモロコシを大量に輸入するのはなぜですか。考えて書きなさい。